

テーマ	教材研究を基盤とした「探究する」を支える授業 UD —国語科における単元デザインと教師の意思決定—
発表者 (所属)	田畑 茜(東京学芸大学附属大泉小学校)
【発表概要】 2021 年、日本授業 UD 学会は、授業のユニバーサルデザイン（以下授業UDとする）とは「特別な支援が必要な子を含めて、通常学級の全員の子が、楽しく学び合い『わかる・できる・探究する』ことを目指す授業デザイン」と定義した。本実践は、この「探究する」を国語科の授業においてどのように具体化できるのかを検討したものである。 実践は、IB PYP 認定校の 6 年生国語科で行った。教科書全体を教材研究し、『海の命』『帰り道』『イーハトーブの夢』を往還する単元を構成した。教師は、教材研究を通して複数の学習展開や資料をあらかじめ準備し、児童の思考や問いを見取りながら、その場で適切な支援を選択した。 本発表では、授業 UD における支援を、授業中の発問や教材提示だけでなく、授業前の教材研究、単元構想、さらに児童の思考を見取りながら支援を選択する教師の意思決定まで含めて捉え直すことを提案する。教師の教材研究と授業中の判断が、「探究する」を支える授業 UD の基盤となる可能性について、国語科の実践を通して考察する。	